

# R.F.C.M Heartful Report

リスク・ファイナンシャル・カウンセリング・マネジメントのハートフル・レポート===

## 『危機体験者の共有で危機回避が出来た人』

誰もが自分の失敗体験を他人に話すことはそれなりの覚悟がいることは言うまでもありません。それは、自分の中にある「羞恥心=見栄」というやっかいな「プライド」を捨て去ることなのですが、ところがそれがなかなか難しい。

自嘲から“羞恥心”が弾き出された瞬間、それは強い説得力を持つ『失敗体験談』となった一つ一つの言葉は、心の叫び、心の声となって、聴く人々へと波動となって響き合うようになると、その場にいる聴く人々との間で受容と共感の信頼関係が生まれてくるようです。

失敗体験者が黙々と語っている内容が、真実であればあるほど臨場感が高まり、やがて時空を超えて広がりを感じる頃には、聴く人はただの聴衆ではなく、語る人と聴き体験を共有できるようにさえ感じてくるのです。

それは聴く人にとって自分のことのように深く記憶に留められ潜在意識となって備蓄されつづけていきます。

「講釈師、見てきたような嘘をつき」と言う言葉がありますが、自分が身を以て体験したのではなく、本で読んだことや学んだこと、自分が直接に見聞きしないで得た噂話のような情報をハナから自分の話のようにして語られたことは、やっぱり薄っぺらで残念ながら聴く人の心に響かないものです。

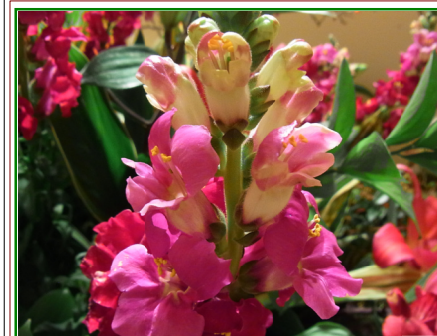
成功体験を語る人はそれはそれなりにいる。なぜなら過去に少々恥ずかしいことがあっても現在の成功がそれを包み込んでしまうからです。

しかし、失敗体験を語る人は少ない。冒頭に書いたように恥辱や羞恥心を晒すことには大きなリスクが伴うからに他ならないのです。

特に中小零細企業経営者には、社会的地位(権威)や社会的信用にマイナスに働くことがしばしばあると言うことを経験したことがあるからなのです。

しかし、例えそうであっても、経験者であるから見えている危機管理の要諦は、経験者だからこそ語らなければならないのだと思います。

危機に直面していない人は、容易に危機に気づかない。それは、想像することすら出来ないから仕方ないのかも知れませんが、危機を感じないから聴く必要がないのではなく、危機を体験したことがないのであれば、危機体験者の話に耳を傾けてほしいのです。



花の形を金魚の尾びれに見立てたと言う説や、金魚のおちよぼ口に似ているからという『キンギョウ』。花弁があでやかでなじみ深い。地中海沿岸で江戸時代後期に日本にやってきて金魚草の名がついた。英語では、蜜を吸う蜜蜂を花が呑み込んでいるように見えるから花を竜に見立てて、スナツブドラゴン。金魚草は、部屋の花瓶にストンと挿しただけでも、部屋の雰囲気が一気に華やかになるから、男所帯には手頃でありがたい花だ。

花言葉には「騒々しい」「出しゃばり」「不作法」のほか「仮定」「推測」「予知」や「純真な心」など、他の花言葉とはチョットばかり違うのはなぜ? 花弁は紅、ピンク、紫紅、黄、オレンジ、白などがあ

ちよつと歳時記

謹んで地震災害のお見舞いを申し上げます。

この度の東北地方太平洋沖地震により被災されました多くの皆様、心よりお見舞い申し上げます。

一日も早い復旧と被災地の皆様の健康をお祈り申し上げますとともに、かけがえのない生命を落とされたご慰霊に對し衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平成二十三年三月十七日  
合掌  
株式会社ホロニックス総研  
代表取締役 細野孟士

役員と、再生の為の深刻な話し合いをするのですが、ある意味での運命共同体という関係の基で熱い意見交換をしているメンバーの顔を見回すと、「居合わせし人」という深い縁を感じてくるのです。

東日本太平洋沖巨大地震のテレビ報道を観るにつけ感じるのは、人には自分では分からない運命というものがあるのでは?…と感じてしまう。

かく言う我が義弟も、1981年9月にヒマラヤ・ナンダカート峰の山頂にアタックする前夜の無線交信を最期にして突然の雪崩に吞まれて、居合わせし7人のメンバーの一人として帰らぬ人となった遭難事故は、まだ記憶に新しい。

ある時代に「勝ち組」とか「負け組」というように、誰か(自分)と誰かを比較して、彼は「勝ち組」彼女は「負け組」と表現をする人がいたが、私はそんな一時的な側面で人を判断するような人には、どうにも好感を持ってないのです。

もしも、その人が自分が「勝ち組」だと誇らしく思っているとしたら、そう思ったときからその人は「負け組」へと転落していくことになるだろう。

『人生は糾(あざ)なえる縄のごとし』というように、良いと思っているときこそ謙虚に行動しなければ人々の反感を買い、気がついたときには「負け組」に組み込まれてしまうことにもなります。

社会の人々を「負け組」と「勝ち組」の2通りに分けてしまうなんて、傲慢で乱暴な考えをもっていたのでは、所詮その枠組みの中でしか生きていけない人になってしまうように思います。

“奪い合う”のではなく“譲り合い”、自分のしたいことを“主張する”より、相手の気持ちを“認め合う”ような関係でありたいものです。

今ある縁を大切に「天運にして 居合わせし人」との関係大切にしながら、時には手を引いて、時には手を引かれ、それぞれがお互いの人権や人格を大切に淡々と生きることも、これまた潤いのある社会活動が導き出せるのではないのでしょうか。

私たち一人一人が、「あなたに逢えて良かった!」と言われるように、社会の中で輝きを放ち続けていきたいものです。



### 『経営危機から家族を守る!』のしおり

このキーワードは、リスク・カウンセラーが小規模経営者に向けて訴え続けている永遠のテーマです。

①正しく“家訓を守り”承継できる会社経営をめざす経営者  
②急成長したのに資金繰りに行き詰まり再生に挑む経営者  
③長引く経営不振に決断が先送りになり迷走している経営者  
④不慮の事故により経営が危機的状態となった経営者の家族  
⑤企業再生が失敗に終わり“起死回生”に向けて頑張る経営者

“万が一”の経営危機を回避するには日頃からの備えが必要です。

昨春90歳で亡くなった日本を代表する被爆歌人である竹山広の歌が「天声人語」にて引用されましたが、近頃、ことある毎にその歌が口をついて出る。

### 居合わせし 居合わせざりし ことついに 天運にして 居合わせし人よ (歌人 竹山 広)

前職の会社を倒産させたとき2万枚を超える名刺を処分したが、僅か20枚ほどをしばらく残して所持していた。今はその名刺も手元からなくなった。

それから22年、再び5千枚を超える名刺を所持していますが、何かにつけ身近に置いておきたくなるのは500枚ほどだろうか。

思えば縁あった人々と出会いのキッカケは、仕事であったり、友人の紹介であったり、勉強会の隣席の人であったりと様々な場があった。

中には、縁が遠ざかっていた人との再会をキッカケにして新たな人々との広がりが生じたりもするし、逆に深い交流のあった人と、突然にプツリ縁が切れて行方さえ分からなくなった人もいました。

経営に行き詰まって相談にいらした経営者の方の関わりも、様々な縁によって出会いが始まっている。会社整理が終わった後に新しい会社で再起を果たし、10年15年と交流が続いている経営者は、会うたびに新たな事業の話をしてくれるので、夢中になって話す経営者の表情も声も、まるで青年のように輝いているようで、引き込まれてしまうほど至福のひとつです。

あるときは、経営危機の状態にある会社の幹部社員や

### 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震等による災害の激甚災害の指定及び被災中小企業者対策について

平成23年3月12日付で中小企業庁より激甚災害に基づき、初動の被災中小企業者とその関係企業(詳細不明)に対して特別相談窓口の設置等を行った。

今回の災害は、被害の全容が未だ明らかではなく、一方でその拡大も予断を許さないことから、措置の対象は「全国」とします。一詳細は中小企業庁HPで確認して下さい

- ◆返済猶予 ◆既借入償還期間の2年延長 ◆金利引き下げ、
- ◆追加融資 ◆共済掛金の納付猶予 ◆対象は全国規模

富貴への道

再生・再起への道

起死回生への道

株式会社ホロニックス総研 リスク・カウンセラー 細野孟士

◇発行者 代表取締役・リスクカウンセラー 細野孟士  
◇責任者 〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-12  
◇連絡先 TEL. 03-5684-0021 FAX. 03-5684-0031  
<http://www.holonics.gr.jp>  
【ホロニック】  
(英: Holonic) 全体(ホロス)と個(オン)の合成語。  
すなわち組織と個人が有機的に結びつき全体も個人も生かすような形態を言う。生物は個々の組織が自主的に活動すると同時に独自の機能を発揮する一方でそうした個が調和して全体を構成する (小学館「カタカナ語の事典」より)

どこの会社にも、それぞれ年1回の決算月が必ずある。

3月や12月決算の会社が多いと思うが、とにかく決算月は各社各様である。

ということは、1月や4月は、新年度のスタート月の会社が多いということである。

各社とも、売上高をはじめ、粗利益や営業利益など、しっかり目標数値を定め、目標達成に向けてのキックオフという、大事な第1歩を踏み出す月でもある。

ところで私は、数百社のキックオフに加わり、各社の目標達成の度合いを見てきたが、つぎのやり方で、どの方法がいちばん目標達成効果が高かったと思いますか？

- ①社長が目標数値を示し、「ぜひ達成しなければならぬ」と、全社員に訴えた。
- ②現場の意欲を大切に、各現場の申告を総計して、全社の目標数値とした。
- ③社長が数値を示し、各部署に割り当て、達成手段は現場の計画を重視した。
- ④環境激変で目標と現実が簡単に狂う。だから「やるっきゃない!」と志気の鼓舞に努めた。
- ⑤経営(数値)計画書を綿密に作り、毎月の達成誤差を、キメ細かくチェックした。

正解はあとにして、下掲の写真をご覧ください。これは、米穀を主力商品とする食品&食材の卸会社・S社の、新年度キックオフ大会(経営方針発表会)のひとつである。私が深くかかわった会社のひとつである。

写真は、ある営業部門担当の部長が一步前に出てマイクの前に立ち、部下は後ろに横一列に並び、全社員の前で、部門の目標数値を発表し、必達宣誓をしているところである。

後方には、社旗と国旗を配し、その上部には、大きな横断幕を掲げた。転換への総決起の意味は、「時流は変わった、我々にも意識と行動の転換が欠かせない」という意味。

この会社では、経理課だろうが商品管理課であろうと、ましてや営業各部門も、一人残らず全員が交替で、全社員の前で、目標数値と主な達成手段を公開し宣誓するというやり方は、はじめてのことだった。



3月11日(金)、東北の太平洋沿岸に震源域は長さ500km、幅200kmに及び約5分間にわたって発生しマグニチュード9.0の巨大地震であった。

マグニチュード9は【超巨大地震】に区分され、M9以上の地震は世界でも過去に4回しか発生していない。  
Mw9.0:カムチャツカ地震(1952年)  
Mw9.2:アラスカ地震(1964年)  
Mw9.3:スマトラ島沖地震(2004年)  
Mw9.5:チリ地震(1960年)

Mj7.0:福岡県西方沖地震(2005年)  
Mj7.3:阪神・淡路大震災(1995年)  
Mw7.5:新潟地震(1964年)  
Mw7.9:関東大震災(1923年)  
Mw7.9:四川大地震(2008年)  
Mw8.0:濃尾地震(1891年)

Mw8.1:南海地震(1946年)  
Mw8.1:東南海地震(1944年)  
Mw8.3:十勝沖地震(2003年)  
Mw8.4:昭和三陸地震(1933年)  
Mj8.0:喜界島地震(1911年)  
Mj8.2:北海道東方沖地震(1994年)  
Mj8.2:十勝沖地震(1952年)  
Mw8.5:明治三陸地震(1896年)  
M8.3~8.6:貞観三陸地震(869年)  
Mw8.8:チリ地震(2010年)  
(TNT換算)  
…M-2.0~M0.5  
M0.5(84g)  
…M1.0~M2.5

経営コンサルタント 二見道夫

しかし私が、このような場を設けることに注力した主な理由は、「目標達成は、与えられるものではなく、我々自身が果たすべき我々自身の責務だ!」と、全社員一人ひとりが、心魂に徹して思うことが重要と思ったからである。

冒頭の5問に戻るが、私がやった方法は③である。そしてこの③のやり方が、もっとも成果に結び付いた方法である。

ところで過去に、私のこのやり方を真似て、「うまくいかなかった」という会社があったが、精神が伴わないまま、上っ面だけ真似たから失敗したと思う。

私は期末2ヶ月前頃には、「目標達成のための、手段検討シート」なる、一種の検討マニュアルを作り、全部門の部長クラスを集め、2回も説明・指導を行った。

たとえば手段は、アクシデントもなく順調に進捗する場合のAプラン、次ランクのBプラン、そして最低必達ラインのCプラン、という3つの手段を計画するよう指導した。

当初は1回2時間を予定したが、全員の熱が高まり、4時間くらいかかったと記憶する。

東京の北区の会社は、全社のモラル(志気)が特に低かったこともあり、【目標必達】と、朱に染め抜いたハチマキを作り、キリリと頭に巻いたものだ。

この東京の卸会社の場合、農水省の外郭団体の幹部も、私のやり方を伝え聞き、経営方針発表会に、オブザーバーとして参加したものである。

経営リーダーの最大の役割は、組織の強烈な勢いを、目標に向けて一致させる旗振りにある。根性論に片寄せず、理屈に偏向せず、バランスを保った組織パワーを育て上げることだ。

そして、この采配と能力が問われるのが、経営新年度のスタートに当たる、経営方針の発表の場である。

「うちはまだ、そんなことは一度もやったことがない」という会社は、思い切って、このような公開型のキックオフに踏み切ることをお奨めしたい。

「やってよかった」という会社が、圧倒的に多いからである。

- M2.5(84kg) …M3.0~M4.5
- M4.5(84t)北朝鮮の核実験地震 …M5.0~M6.5
- Mj6.8(84000t)新潟県中越地震 …M7.0~M7.5
- Mw7.9(260wt)関東大震災 …M8.0~M8.5
- Mw8.8(8400wt)チリ地震 …M9.0~M12.0
- M9.0(4億8000wt)東日本巨大地震**

M10.0(150億t)地球上で起こりうる最大の地震

M12.0(15兆t)地球を丸一周する長さの逆・正断層が動く(地殻が完全に断裂する)とこの大きさになる。

### =中古マンション購入の必須ポイント=

不動産コーディネーター 豊田 泰由

地価の下落によって都心のマンション価格が廉価になったとは言え、新築になると6千万円を超える物件が多い。

一方、2~4千万円台で購入できる中古マンションの需要も増加しているが、それを購入するには新築物件を購入する時以上に気をつけたいことがあります。

中古マンション選択の第1は、構造体のひび割れ、壁面の汚れ、モルタル剥がれ、鉄筋の露出やさび、屋上、階段、ベランダなど金属部分の塗装剥がれや錆など、が酷い物件は避けたいものです。

第2は、個別の室内における水漏れはシンクの下やU字パイプ周辺の汚れ、雨漏りなどは天井、窓枠周辺、ベランダの排水孔周辺を確認し、上下水用パイプのメンテナンス、屋上防水処理の状況など目視と管理データの確認で相当のことが分かります。

第3は、建物の管理体制の問題だ。建物の居住者が建物に愛着を持つ所有者自身によって構成されているのか、居住者が賃借人によって構成されているのによって、維持管理の状況が大きく変わってくる。建物修繕積立金の徴収率が高く、長期修繕計画が計画通り実施されていることは絶対条件であると言えます。

第4は、建物が建てられている画地の地勢です。地震によって液状化現象が発生したような地域ではないか、或いは市町村役場でハザードマップを確認し、水害などの心配がないかを確認しておくことも大切です。

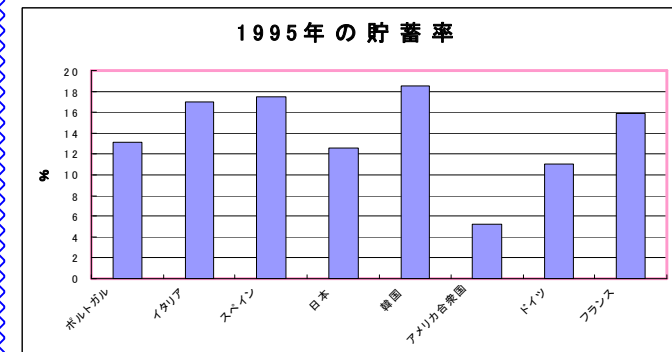
新築も中古も、マンションのグレード判定の基準となるのは管理組合が組織化され、経験豊かな管理会社の管理体制や管理能力が高いか否かによって決まると断言できるのではないのでしょうか。

### World Now



今月は、家計貯蓄についてご紹介したいと思います。家計貯蓄とは、一般的には家計に入る可処分所得から実際に消費した金額を差し引いたものです。また家計貯蓄率は、貯蓄を可処分所得で割って計算します。その貯蓄率がマイナスになるのは、借金をするなり預金を切り崩すなりして、可処分所得を上回る消費をしたときです。

かつては貯蓄大国として知られていた日本ですが、いまでは過去の話となってしまいました。以下のグラフをご覧ください。これは、『Global Finance』という金融専門雑誌のWebサイトから一部引用した数字をグラフ化したものです。(http://www.gfmag.com/tools/global-database/economic-data/10396-household-saving-rates.html#axzz1GFSPZoo)



比較のために取りあげたのは、金融財政面で深刻な問題を抱えているとされるポルトガル、スペイン、イタリアです。また、

### ■認知症予防・新書■

NPO法人 認知症介入指導協会 理事 清輔喜美男  
<http://www.ninchisho-yobo.jp>

「アルツハイマー発生原因、老人斑説否定」

大阪市立大学の富山貴美准教授と森啓教授らは、認知症のアルツハイマー病が脳内にたんぱく質の「アミロイドベータ」の小さな塊がたまっただけで起こることを動物実験で突き止めた。

たんぱく質による単独犯説が明らかになり、シミのような老人斑も関係するという従来の共犯説をほぼ否定できたという。

アルツハイマー病はアミロイドベータが脳に少しずつ蓄積すると、病気を発症すると考えられている。ただアミロイドベータが数~数十個集まった小さな塊が蓄積するだけでなく、繊維状に集まって「老人斑」と呼ばれるシミのような状態も、病気の発症・進行に関係するとの説もあり、議論が続いていた。

研究チームは老人斑がなくても発症した重症患者を調べ、アミロイドベータのもととなる遺伝子に異変があるのを見つけた。

この患者と同じ場所に遺伝子の異変を持つ実験用マウスを作り、症状を調べた。

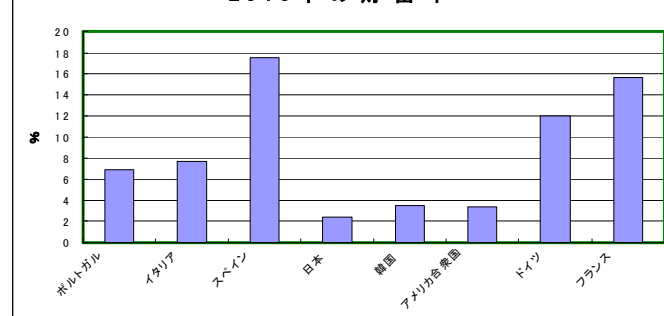
マウスは生後8ヶ月目から、脳内にアミロイドベータの塊の蓄積が増えるとともに、記憶障害が現れた。老人斑がなくても発症したうえ、症状が進行した。

今後は蓄積の様子から発症の可能性を診断したり、治療薬の開発を進めたりできると期待している。



(日本経済新聞4月8日朝刊)

2010年の貯蓄率



日本同様貯蓄率が大幅に減少している韓国と先進国のアメリカ合衆国、ドイツ、フランスの数字もグラフに載せました。

ご覧のとおり、過去15年のあいだに貯蓄率は全般的に減少していますが、特に日本と韓国の落ち込みは顕著です。

『Global Finance』の記事では、この貯蓄率と国の長期的成長を関連づけています。

つまり、長期的経済成長には資本投資(インフラ、教育、テクノロジー、工場など)が不可欠であり、国内におけるその資金調達源となるのが、家計貯蓄だということです。

また記事では、日本の債務のことにも触れています。日本は多額の債務を抱えてはいても、その調達元は自国の国民、つまり家計貯蓄であったため、他国の債権者に負債を負うよりも多く債務を維持できるといわれてきました。しかし、その家計貯蓄が減少の一途を辿っているため、もはやその考えは当てはまらないということです。

かつての貯蓄大国のイメージを持ち続けることなく、日本国民は現状を直視すべきときにあると思います。